

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標1	家庭・地域及び学校における子どもの読書活動の推進		
	1. 本との出会い、家族の語らい ～家庭における子どもの読書活動の推進		
	【担当課】健康推進課、子育て支援課		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	子ども(3歳児)に本を週1回以上、読み聞かせをする保護者の割合	70%	90%
	3歳児保護者のおはなし会への参加率	10%	10%
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市では、生後4か月児とその保護者を対象に、絵本の読み聞かせや絵本を贈呈するハートフルブック事業を行い、乳幼児と絵本の出会いや絵本を通じた親子のふれあいを支援している。 ・子育て支援センターや児童館では、絵本コーナーを設けており、親子が本に触れあう機会を育んでいる。 ・子育て講座などでは読み聞かせサークル等の協力を得ながら、乳幼児親子を対象にお話し会や読み聞かせを行っており、おたよりや子育て情報サイトで周知している。 		
	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3歳児の保護者を対象としたアンケートでは、ハートフルブック事業で贈呈している絵本について、「上の子どもと同じ本を配布されたため選択できればよかった」という意見が多く、検討が必要。 ・市立図書館等で開催しているおはなし会へ参加したことがあると答えた方は、3歳児健診時アンケートでは7%に過ぎず、周知が不足している。 ・子育て支援センターや児童館においては、季節や行事、年齢に応じた図書の充実が必要。 		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・2021年度は「いないいないばあ」の絵本にメッセージカードを貼付して贈呈。4か月児健康診査の会場で子育て支援センター指導員等による読み聞かせを実施していたが、2020年度からは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止している。健診の機会を活用し図書館課作成の絵本ガイドの配布等、図書館の利用促進に協力していきたい。 ・子育て支援センターや児童館では、絵本コーナーを設けており、親子が本に触れあう機会を育んでいる。またスタッフが手遊びや読み聞かせを行ったり、絵本の読み聞かせサークルによるお話し会を行うなど、絵本の読み聞かせの楽しさを伝えている。 ・図書館からのおすすめ絵本を子育て情報サイトに掲載し、情報発信に努めている。 ・児童館においては、市民からの寄贈により図書が充実した。 		
今後の取り組み(計画・予定など)	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期における心の健康づくり事業の1つとしてハートフルブック事業を継続する。絵本をとおして親子関係を確立させ、子どもたちの豊かで健やかな心をはぐくんでいく。「本を選択したい」との要望に応じて3冊から選べるようにする予定。 ・図書館主催のおはなし会やおすすめ絵本などの情報について、館内または子育て情報サイトへ掲載し、子育て支援センター・児童館の利用者へ直接情報提供するなど、積極的に情報発信を行う。 ・図書館や読み聞かせサークルと連携し、お話し会等を定期的に行うとともに、おたよりや子育て情報サイトでイベントの周知を図る。 ・視覚に訴えるよう図書の展示の工夫し、子どもと本を結びつける機会を提供する。 		

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標1	家庭・地域及び学校における子どもの読書活動の推進		
	2. 創造力を育む本との出会い ～保育所(園)、幼稚園における子ども読書活動の推進		
	【担当課】 図書館課 (協力: 保育所(園)、認定こども園、幼稚園)		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	保育所(園)・認定こども園への団体貸出の回数	68回	100回
	「読書に関する作品コンクール」への読書感想画の応募数(幼児)	198点	220点
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの市内の保育所(園)や幼稚園では、子どもたちが本と触れ合う時間を重視し、毎日絵本や紙芝居の読み聞かせの時間を設けている。 ・市立図書館から定期的に本を借受れたり、市内で活動している読み聞かせサークルによるおはなし会を開催したりしているところもある。 ・施設で所蔵している本を子どもたちや保護者に貸し出すなど、各施設における特徴的な活動も多く、また、市立図書館で実施している「読書に関する作品コンクール」へ読書感想画を毎回欠かさず応募する施設もある。保育士、幼稚園教諭による熱心な読書推進に関する指導が広がっている。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園内の限られた本だけではなく、新しい本や、時節にあった多くの本の世界を子どもたちに提供するために、市立図書館との連携が不可欠である。 ・保育所(園)や幼稚園で多く与えられる本に触れる機会を、時間の確保が難しいとされている家庭での読書にも繋げる必要がある。 		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<p>「読書に関する作品コンクール」応募の推進については、募集依頼文書の配布を複数回実施し応募の呼びかけを行うとともに、一般の応募者に訴求するためメールでの募集を実施した。メールでの応募は短文部門に3件あった。</p>		
今後の取り組み(計画・予定など)	<p>保育所等への団体貸出回数の増加に向けて受け入れ先の新規開拓を進めたい。 また、「読書に関する作品コンクール」については3次計画策定の際にはそのあり方の検討も必要であると考えている。</p>		

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標1	家庭・地域及び学校における子どもの読書活動の推進		
	3. 生きる力を育む本との出会い ～学校における子どもの読書活動の推進		
	【担当課】教育指導課（協力:小中学校）		
目 標 値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	1ヶ月に6冊以上読む小学4年生の割合	81%	85%
	1ヶ月に3冊以上読む中学2年生の割合	47%	60%
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】 2021年度に横手市で行った小学校4年生と中学校2年生対象の「読書についてのアンケート」では、以下の結果となっている。「横手市子ども読書活動推進計画」最終年度である2018年度と昨年度の同調査結果を参考に現状を分析する。 「本を読むことが好き(どちらかといえば好き)」・・・小学校4年生89%、中学校2年生79% 「1か月に6冊以上本を読む小学校4年生」・・・73%(2018年度 68%、2020年度 81%) 「1か月に3冊以上本を読む中学校2年生」・・・48%(2018年度 60%、2020年度 47%) ・小学4年生においては、2018年度と比較すると「1ヶ月に読む本の冊数が6冊以上」が5%増となり、着実に読書冊数が増加している。 ・中学2年生においては、2018年度と比較すると「1ヶ月に読む本の冊数が3冊以上」が12%減、なかなか読書に親しむ生徒の数が増加していない。しかし、昨年度比では1%増加している。 ・小学校では、子どもたちの置かれた状況に応じて、貸出冊数や貸出回数が増加などの対応が各校で見られた。 ・学校司書は子どもたちの読書活動推進に向けて工夫改善に努めているものの、学校を挙げて読書活動に取り組むか否かが、子どもたちの読書冊数に大きく影響している。 ・読書冊数を正確に把握することが困難なため、記憶に頼るところも見られる。</p> <p>【課題】 ・本計画案、設定されている目標値について、各校への周知徹底を図る必要がある。 ・中学校においては、学校図書館の貸し出し本についてはバーコードで把握できるが、持ち込みの本については生徒が書き込む方法をとっているため、正確な冊数を把握しにくい。目的に合った読書記録の工夫改善について、各校連携して求めていきたい。</p>		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<ul style="list-style-type: none"> ・ほとんどの学校において、学校全体や一人一人の目標冊数を設定し、その進捗状況について定期的にチェックして校内に掲示し意欲付けを図っている。 ・図書館掲示から校内掲示へ、全校集会での表彰、中学校区での取組など読書活動の推進についての広まりをもたらしている。 ・授業との関わりにおける図書の活用を推進し、探究活動と共に読書の楽しみを実感させている。 		
今後の取り組み(計画・予定など)	<ul style="list-style-type: none"> ・本計画と設定されている目標値について、確実に各校への周知徹底を図り、取組の工夫改善を図る。 ・横手市立図書館・学校図書館職員合同研修会、学校司書研修会、学校図書館訪問等の機会を活用しながら、有効な図書館活用の在り方についての実践的な研修を蓄積する。 		

2021(令和3)年度 横手市子ども読書活動推進計画調書

基本目標1	家庭・地域及び学校における子どもの読書活動の推進		
	4. 夢を育む本との出会い ～市立図書館における子どもの読書活動の推進		
	【担当課】 図書館課(協力:生涯学習課)		
目標値	項 目	2020年度実績	2022年度目標
	小・中学生の一人当たりの貸出冊数	12冊	20冊
目標値に対する現状と課題	<p>【現状】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市立図書館では、市内で活動している読み聞かせサークルと連携し、定期的におはなし会を開催している。夏休みなどの長期休暇には子ども向け工作教室など、図書館利用のきっかけとなるようなイベントの工夫にも努めている。 ・読後の達成感を得ることで読書習慣の形成が図られるように、年間を通して、一定冊数以上の読書をした子どもたちを表彰する「読書満点カード」や「読書通帳」「とよかんスタンプラリー」などの事業にも取り組んでいる。 ・平成18年度から本との出会いを提供するために実施している「読書に関する作品コンクール」では、令和3年度の中中学生以下の応募が4,230点あった。特に小・中学生においては、4,033点の応募となっており、児童生徒の約7割が参加している。 <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や高齢者施設などからの読み聞かせボランティアの派遣依頼が増加している。おはなし会にボランティアとして参加している高校生からは、「将来保育士を希望しているので積極的に参加していきたい」との意見もあり、市立図書館として継続的に読み聞かせボランティアを育成する環境づくりが求められている。 ・子どもが市立図書館を利用するためには、送迎など保護者の同伴を必要とすることが多くある。子どもの来館機会を増やすためにも、親子で楽しめる行事や展示の企画が必要である。 ・「読書に関する作品コンクール」では、標語などの短文部門への応募は増加しているものの、感想文や感想画の応募は減少傾向にあるため、文章部門や絵画部門への参加を推進する必要がある。 		
これまでの取り組み(2021年度の実績)と成果	<p>2021(令和3)年度も「読書満点カード」や「とよかんスタンプラリー」を開催するとともに、新たに「図書館で本を借りて特産品をもらっちゃおう」キャンペーンを実施し新規登録者の増加がみられた。</p>		
今後の取り組み(計画・予定など)	<p>「とよかんスタンプラリー」などの企画を通じて、各館の魅力を感じてもらいながら来館推進に努める。 また、来館者以外への支援についても、今後学童や団体貸出の推進を図っていく。</p>		